(ロ)の同じく設備資金では、浅海増殖のための投石、投材、コンクリート礁、魚礁、と定められている。

而して一会員についての保証金額の最高限度は前述出資金の五倍であつて所要資金の百分の八十に相当する金額をこえない資金の借入についてその全額を保証するものであつて、百分の二十については自己資金があるとか当該保証により貸付を行う金融機関の通常の貸付その他の方法で調達できることを確認した上で保証を行うことになつておる、但し所要借入金額につき地方公共団体の損失補償契約のあるときと所要資金の金額が出資金の二倍以内である場合にはその所用資金の全額につき保証することができることになつている。

次ぎに保証借入期間であるが、その最高限度は運転資金については一年であるが、前記(ニ)の貝類の移殖事業と魚類の放流事業とについては本県の場合に限つて三年を認められておる。

設備資金については五年であつて、最低限度は借入の期間及び分割弁済の場合、借入の日から第一回の分割弁済期日までの期間は九十日である。但し分割弁済期間(第一回分割弁済期間は前記の通りなので除く)の最低限度は、運転資金については一月、設備資金については三月である。

又保証融資を受くることについて守るべき条件として、担保を提供し又は担保の提供を予約すること、連帯保証人を立てること、担保物件(漁船や家屋等の場合)に損害保険を付し保険金の受領権を質入すること、漁業協同組合その他に水産物の出荷販売代金から保証にかかる債務の弁済のため水揚の天引積立を行うこと、その他金融機関又は協会が必要と認めた事項を確約し且つ確実に実行すると認められる場合に限り保証するものとすることになつておる。

なお、この保証には政府が認むるところの保証料を金融機関が貸付と同時に徴収する。この保証料は融資機関の金利外に基金協会の収入となるもので基金協会が債務保証と同時に「中小漁業融資保証保険」に付保する保険料金に見合うものである、この保証料率は日歩一銭以下と定められておる。本県では発足当初から日歩六厘を実施してきたのであるが一昨年の五月一日以降保証した分から特に政府の承認を得て日歩三厘を実施しておる。

以上で制度と利用についての概要をつくしたと思うが世上往々にして新に漁業に着業したいからと相談に見えるむきや、旧債の借替も可能と解して相談を受けることもある、又出資金迄も漁業経営上の必要資金として借入れできると解されるむきもあるがこれ等は全くの見当違いというもので曲解も甚しい。

繰返して述べるが本保証制度を利用せんとするには、最小限所要資金に見合う出資金と総所要金額の二〇%の自己資金の手許金がなければならぬことである、本制度は中小漁業者の金融梗塞に対し資金の疏通を図り斯業の振興を促進せんとする制度であることをとくと理解されたい。

基金制度も発足以来七年にもなるが、この間根本的な制度の改変が行われなかつたけれども各協会ごとの実際面に副うところの小改正は逐次認められて現在に至つたのである。然るに昨年から水産庁内に漁業法並に関係法規の改正準備が着々進められておるやに仄聞し又論議もされておつたところ過日の水産庁長官の年頭辞にも三十五年は漁業関係法規改正の年であると宣言されておるのを見ても明かとなつた、法律は時勢の推移に伴わなければならぬことは論ずる迄もないことであつて基金協会の法規上にも多少の改正が行われる徴の

(県水産振興会「会報」第3巻1号より)
35.1.25発行

見受けられることは 欣びに堪えない、中でも当協会の提案した「出資金の一口、金額の五万円は実際に即しないから 一口金額一万円の小口特別会員をも認むべきである」というのと 多年要望しつづけてきた「加工面にも運転資金としての保証を 認むべきである」との二案と全国協会の一致した提案となった漁業協同組合が 金融機関と見做されて基金協会の保証融資を 傘下組合員に行うこと」のできる三つの改正が実現されることともなれば沿岸漁家がどんなに 救われるか図り知れぬものがありと想うものである。

最後につけ加えたいことは往々にして基金協会の 保証手続が甚だ七面倒で且つ時間がかるという 非難に対して一言したい、以上述べた通り基金協会の保証は政府保証に通ずるものであって 端的に申せば基金協会の保証が即政府保証なのであって凡 べてが政府の直接監督下におかれておるのである、従ってこれが衝にあたる 事務当局の責任は極めて重大で一切当局の指導通りに 行わねばならぬことと他面金融機関との密接な連繋の下に納得のゆく保証を 行わなければならぬ点とにあることを理解されたい。幸にも今日迄の 実績と相互の理解とによって金融機関においてもリスクの多い 漁業金融には基金保証に依存の安全感を認識されて漸次漁業金融は基金保証で との観念が常識化されつつあることは中小漁業者のためにも 欣幸とするところである。

(35・1・15 稿)

第一回 水産業改良普及事業協議会

第一回の水産業改良普及事業の協議会が 次のように開催される。これは青森県の主催、 本会ならびに県漁連、県信漁連の後援によるものである。

一、日 時　昭和三十五年二月八日午後一時から
　　昭和三十五年二月十日まで
二、場 所　青年の家(青森市石江)
三、内 容
　1、水産業技術研究発表会
　2、各グループの現状発表 (現状と問題点)
　3、今後の活動について協議
　　全体協議及び分科会 ─ 研究グループ / 青年部 / 婦人部
四、対 象
　1、市町村水産事務担当者
　2、漁協役職員
　3、漁業研究グループ代表者
　4、漁協青年部代表者
　5、漁協婦人部代表者

これは、従来ともすれば不振がちであった漁村の 集団活動について現状と問題点を話し合い、 今後の活動に方向づけをしようとするものである。

（県水産振興会「会報」第三巻三号より）　三五・四・二五発行

第一回水産業改良普及事業協議会開かる

一、日　時　昭和三十五年二月八日午後一時開会
　　昭和三十五年二月十日午前十一時散会
二、場　所　青森市大字石江（青年の家）
三、出席者　七十四名

第一日目

一、青森県水産商工部長あいさつ（要旨）

県水産振興会、県漁連、県信漁連等の御後援を得まして第一回水産業改良普及事業協議会を開催することになりましたが、熱心な皆様方におかれましては、冬期間におけるこのような悪路にもかかわらずかくも多数お集りいただきましたことにつきましては、主催者といたしましてまことに感激にたえない次第であります。ところで、戦後我が国における水産業は、沿岸から沖合へ、沖合から遠洋へと進展して参ったのでありますが、最近におきましては、遠洋、沖合漁業におきましては、国際的な諸制約を受けておりまして伸び悩みというよりむしろその勢力を縮小しなければならない事態におかれており、逆に沿岸漁業への過重となって現われておるようでございます。青森県におきましても最近における沿岸漁業の趨勢といたしましては不振の一言につきる次第でありまして、沿岸の漁業所得の面、漁業協同組合の現状等から推察いたしましても今後本県における沿岸漁業の振興をはかって参りますためには、幾多の難問題を包蔵しております。

これらの問題解決に当りましては、行政施策の上において推進して行かなければならないことは、もちろんのことでありますが、漁村における漁民自体が自からの問題として、これに対処し一人より二人の力、共同の力でこれらの問題にとり組まれることが基本的な推進母胎とならなければならないであろうと思うのであります。幸い本県におきましては、沿岸漁業改良普及員の配置をみて以来、漁民自からの共同の力による研究組織の設立をみるに至りまして本日第一回の協議会を開催することができた次第でありますが、この協議会を通じまして、日頃の皆様の研究活動成果を相互に交換し合い充分御討議願いまして、明日の明るい漁村を築かれるために役立てていただくようお願いする次第であります。

二、研究発表会（午後二時開会）

㈠カタクチイワシの刺網漁業　青森市後潟漁業研究会　坂本静雄

研究の動機……この地区においてカタクチイワシは定置網により漁獲されていたが、潮流の関係により定置網の沖合に来游群がみられても乗網しない場合が往々にしてあるので刺網漁法によってこれを漁獲しようと考えた。

研究の経過……カタクチイワシの魚体測定をして網目の選定に努め綿糸漁網、合成繊維との比較試験、投網時間による漁獲の相違、投網深度による漁獲相違について研究した。

研究の結果……漁網はナイロン二一〇番手、十四節を用い目数を五

○○目とする。浮子棚はマニラロープ四分、沈子棚三分のマニラロープを使用し浮子にはコロッグ浮子四十八枚、沈子には瀬戸足十二〆をつけ網地には「イセ」四割をいれる。操業時間は夜間操業にすると日中操業の二倍の漁獲があり、とくに日没一時間前後、夜明一時間前後がかかりが良い。ナイロン漁網は綿網より約六十%のかかりがあつた。漁獲物は焼干いわしにしている。

㈡魚群探知機利用による漁場調査

裏月漁業研究会　小倉直市

研究の動機……この地域は古くからこんぶ、するめいかに依存してきたが最近においては不漁であり、八戸方面へのいか釣漁業に出稼ぎしているがこれも所得の面においては不安定である。地先漁場は一、○○○米沖合よりも調査されていないので魚群探知機により調査した。

研究の経過……県水産試験場が漁村の農地開発事業に伴つて漁場調査を当地において行つた機会に、吾々研究会もこれに参加し、水試職員の指導助言を得て、海上に一浬間隔の桝目を作り、漁群探知機により調査を実施した。

研究の結果……この調査は一週間に亘り実施したが、メバル類、カレイ類等の自然魚礁を発見し、多釣釣等により漁獲をあげたい計画であり、今後とも魚探により漁場探索に努めて参りたいと思います。

㈢ワタリガニの刺網漁業　青森市油川協同組合　小山内宇一郎

研究の動機……シャコの刺網漁業がこの地域においてひろく行われているがこの終漁期近くなるとワタリガニが混獲されるのでワタリガニの分布習性等についての研究に着手した。四月初旬沖合約三、○○○米にワタリガニの雄の出現がみられ雌は二、○○○米位沖合にそれぞれ分離して分布している。五月下旬から六月初旬にかけては次第に雌雄とも接岸して産卵に入ることが確認された。漁獲対称としては、産卵期は資源保護のため自主的に漁獲を禁止しているので、産卵が終り次第に肥満してくる八月中旬から十月初旬において漁獲し、一号綿糸5寸目により漁獲している。

㈣小湊湾ののり養殖について

平内町小湊のり養殖研究会　工藤喜代作

研究の動機及び結果……小湊湾におけるのりの養殖は乾燥機の導入によつて始められた。小湊湾におけるのり養殖は明治初期にソダヒビによつて始め、昭和初期には網浜によつて行われていたようであるが、冬期には晴天が少く天日乾燥が出来ないため規模も小さく十分な成果をあげることが出来なかつた。同研究会は県水試の指導のもとにのりの種苗、適地等を調査し昭和三十一年に養殖に着手したところ、昭和三十一年に従事者四名により一五万枚九○万円の収益があり現在昭和三十四年においては八七万枚六五○万円の産額をあげることが出来従事者も九五名に達した。のり養殖は漁閑期において収入が得られるので漁家経営に大いに役立つている。

今後の課題……のりの養殖が行われている小湊湾は天然記念物に指定されている白鳥の渡来地であるため、白鳥保護の見地からのり

漁場が拡充され得ない実情におかれているので 今後の研究課題としては、種苗改良による品質の向上、北海道宮城県の摘採時期に比較すると遅れており、価格の面において低廉となつているので早期摘採種苗の研究に着手する必要から、宮城県、北海道の先進地を視察して、種苗を得て来たので、目下これらの種苗を移殖試験中である。現在においては小湊のりの種苗は、野辺地、茂浦に移殖され近く蟹田方面にも移殖されるようになつております。

㈲千葉県勝浦のブリ一本釣漁業について（報告）

小泊漁業研究会　長谷川国雄

研究会の現況と今後の活動……小泊漁業研究会は、昭和三十三年五月に発足した。研究会結成の目的は、グループ員が相互の漁況を交換し合うこと、漁協の不振打解のために漁協への一元出荷貯金事業の推進を主目標として活動してきた。この結果漁具漁法漁場等をお互いが教え合うことにより漁獲が平均されてくるようになつた。漁獲を全面的に漁協へ出荷し、又事情によつて問屋へ水揚げしなければならない者漁協育成のため問屋から口銭の一分を漁協へ渡すようにきめ、又漁獲代金から二分天引貯金を行つた結果現在において一三万三千円の貯金高となつた。この貯金はこのたび県及び村の援助によつて先進地千葉県勝浦沖で実習してきたブリ一本釣への転換資金借入の財源となり得た。小泊沖は例年ブリの洄游が多く今まで漁法を知らないため漁獲していなかつたのでかねがね、ブリ漁法の先進地について調査しようとしていたもので県の御斡旋によつて勝浦へ参りまして学んで参りました漁法によつて大いに張り切つておる次第であります。

以下ブリ一本釣についての漁法についてお知らせいたします。（以下省略）

発表終了後その内容について活発な意見交換が行われた。

第二日目（二月九日）午前九時から

一、「青森県の水産業について」

講演　青森県漁政課長（要旨）

青森県水産業の現勢について述べ、沿岸漁業のおかれている窮状を打解するには漁民の仲間づくりによる漁村個々の事象（問題）をとらえての漁村青壮年婦人活動が基本的推進母胎とならなければならないと強調した。

二、漁業研究組織の現況発表

県内十五漁業研究組織の現況報告を要約すると次のとおりである。

① 出稼に行つた青年と行かない青年との間に心理的隔差があつた。すなわち会合を通じて出稼に行つた青年には何か大きなひけめが感ぜられた。出稼者と村に残つた青年との心理上の交流をはかるため、村の学校の協力を得て、生徒の作品をのせたり、残つた青年の動向をのせたりした文集を発行して、これを出稼先に配付したりなどして地域をはなれていても精神的なつながりをもつようにした結果、今では何ら特別な感情をもつことがなくなり、出稼青年が帰村してもともども水産業改良普及事業に精進している。

（下北郡風間浦村青年団）

② 我々は沿岸の漁村に生まれた、この事実はどうすることも出来ない。部落の前は海でありやはり漁業の不振になやんでいる。しかし村を捨てて他の産業へ従事できない以上、我々は自分達の手でで

きる沿岸漁業の振興を考えるべきだ。漁民としての誇りをもつて生きて行こう。

こうして地元の漁業協同組合のなかに青年部をつくり地先漁場の海岸観測、ほたてがいの種苗管理や投石事業などの研究に取組んでいる。（川内漁協青年部）

③ 沿岸漁業の振興は漁業協同組合をぬきにしては考えられない。従つて漁業研究組織活動も漁協との結びつきをもつて進めるべきで第一には生産を高めるための技術改善をはからなければならないと考えたので、漁場、漁況の交換を行つた結果生産が漸次上昇してきたが新しい資源を対象とした技術習得ということを考えて千葉県勝浦に代表者が行きブリ一本釣漁業を体得してきたので、これが普及をはかり本年から実施することになつている。又漁協への協力については全面的に漁獲物を出荷しており五分の天引き貯金を行つている。（北郡小泊漁業研究会）

漁協婦人部分科会

一、現況

漁協婦人部は県内十五団体約二〇〇〇名により結成されている。漁協婦人部発足の直接的動機としては、系統への貯蓄運動に起因しているが、現況においては貯蓄運動を含めての生活改善、漁業所得を高めるために協力せんとする漁村婦人の力でできる副業を拡充奨励の方向へ移向しつつあり、漁協婦人部活動も県内漁村全域に拡げられる傾向にある。貯金高も県信漁連扱いは約八〇〇万円の備荒貯金が漁協婦人部の力によつて預金されている。

二、分科会の決議内容

①貯金について

漁村地帯においては、なんといつても身体が資本であると云い得る、従つて働けるうちに資本を貯めておく必要がある。従つて消費生活の合理化をはかるため予算生活を行うため家計簿をつけるようにする。家計簿は信漁連で配付したものに従つて記入するようにし一ヵ月どの位かかるか夫に知らせ協力を求めるようにする。漁協のなかには系統から大きな負債を背負つている漁協もあるが、婦人部貯金については担保に供する等といつた措置は、信漁連においては絶対に行わないよう努力する。

②生活改善

漁村地帯は病人が多い（神経痛、高血圧症状等）が、これらの原因を考えてみると、労働の過重と偏食に起因しているようであるので食生活の研究が必要である（婦人少年室長談）ので三色運動行うように心がける。すなわち人間の生命を営むに必要な赤、黄、緑の食品をとるようにし、漁村地帯の環境にあるこれらの食品の分類表を県から漁村家庭に配付する。また偏食を直すには家族全体の意見を聞く事や又特に子供が学校において学んできた知識を食生活の面において発言させるようにするのも夫に協力を求めるための一つの方法である。又、青森県の漁村地帯は子供が多く平均六名という事実からみても、婦人の労働が過重な状態におかれている。よつて受胎調節を行う必要をみとめるが夫の協力がなければならない。これらの運動は婦人が団結して漁協の会合等において、これらの問題について話し合いの場をもつようにして村ぐるみ運動へ盛り上げて行くようにする。また婦人の会合に出席する際服装のため出席しない婦人があるので漁協婦人部として会合に出席する際の服装を統一するように努める。

③漁村の副業

脇野沢村においてはふのり養殖研究会を婦人の力で結成し、沿岸漁業改良普及員の指導のもとに施肥等によるふのり養殖を実施し、同村沿岸のふのり増殖に着手した。小泊村の婦人は「明るい会」をつくり、ふぐの加工、山菜等による漁村の副収入を高めることに精進している。また分科会において家畜（鶏、豚）の優秀飼料となるみやきの萩の移植を行い、これが普及をはかつて、漁村における畜産拡充に役立てる。このように漁業所得を高めるために、婦人の力で出来る副業については地理的条件を考えて推進するようにつとめる。

三、全体討議

「漁村における集団活動はどう進めたら良いか」

全体討議は漁協青年部、研究グループ、婦人部とも前記の研究テーマを中心に活発な意見が交換され、終始真剣な態度で討議された。討議内容をとりまとめてみると次のとおりである。

沿岸漁業の振興は漁業協同組合を抜きにしては考えられない、あくまでも漁業協同組合を中心に振興をはからねばならないという点第二には漁村における集団活動は、地域の問題点解決のためにこそあるべきで、沿岸漁業の不振になやむ共通の壁に立ち向うため一人よりは二人、二人よりは三人と仲間づくりを推進して行こうという点、第三には漁村の集団活動は、二つの行き方が考えられる。一は漁業協同組合の下部機構である漁協青年部、漁協婦人部という組織によるもの、二つには漁業協同組合との結びつきがどうしても困難である状況においての漁業研究グループの在り方、さらにこれには漁協との結びつき以外に漁業についての研究が強いものなら年齢に関係なく組織出来る。例えば、本当に漁業技術の基礎が出来るのは三十才以上になつてからではないか、であるから漁協青年部よりは漁業研究グループとしての組織の方が実体に即しているという意見もあつた。結論としては、地域によつて特殊な事情もあると考えられるので、その事情に応じて漁協青年部なり、漁業研究グループなりの組織を考えるべきである、ともかく地域社会の問題解明のために力を結集しようとの結論を得た。

四、本協議会において特に決議された事項

決議内容「青森県沿岸漁村に生活改良普及員を配置されたい」

理由　青森県漁村地帯は、生活改善面においては農村に比し極めて遅れている現況にある、国においては昭和三十五年度漁村に生活改良普及員を駐在せしめる予算が計上されているので青森県漁村に右普及員を駐在させてほしい。

漁協へひとこと

青森県水産商工部次長
飯塚　勝

私が日頃県内の漁業協同組合について考えておりますことの二、三について申し上げてみたいと思います。

先ず第一に考えたいことは一体なんのために漁業協同組合を作ったのかということであります。このことは私が申し上げるまでもなく漁業協同組合の組織は資本主義、特に商業資本に対しまして、零細漁業者が共同の利益を求めて対等に生きて参りますために漁協が組織されているのでありまして、組合員でありますみなさんが血の出るような金を拠出してこれを出資金としましてその生活を守るために必要な事業を計画し役職員に運営させる、組合長はじめ役職員は公僕の精神に徹してその仕事に取組む組合員は自分の血肉の一部として組合を認識して、これを盛り立てもするし、また注文もする。

このような形のものであってこそ本当の漁業協同組合の姿であるといい得るのではないかと思うのであります。

ところで県内の漁業協同組合の現状について考えてみますと現在本県には九十四の組合がございますが、その内容は遺憾ながら非常に弱体でございます。例を出資金にとりますと全国の平均出資額は百二十八万円となっているのに対しまして本県の平均出資額は六十八万円となっております。

このうち最も少ない組合になりますと出資金が僅かに十六万円という状態でございまして、全国漁協平均の半分以下の力より本県の漁協は発揮しえないという窮状にあるわけです。

また一旦風水害にあい、その復旧にあてる資金、または例年にない不漁に見舞われたため生活資金ないしは漁業への仕込資金にあてるための備荒貯金等の信用事業を行っております組合は九十四組合のうち僅かに三十四組合にすぎないといった現状にあるわけです。

沿岸漁業が不振で漁業からの収入が少ないので組合への出資も貯金も出来ないと言ってしまえばそれまででありますが、私達は沿岸漁業が振わなければ振わないほど組合をもっともっと強くして行かなければならないのではないでしょうか。

組合員の方は勿論、婦人の方も青年の人達も組合を自分の家と同じように考え、組合の繁栄は我が家の繁栄であるとお考えになり、苦しい中にも自分達の暮し向き、漁業の内容に工夫をこらし、改善を加えるようにしていただいて組合を中心にして本県沿岸漁業を振興させて参りますため共々努力して行こうではありませんか。

藁の長さは精々一メートルにすぎませんが、これをなえば無限の長さになり、更にこれを合せますと強い風にも耐え得る力を発揮します。

そのような意味におきましてもみなさんの漁業協同組合の力を強くいたしますためになお一層の御努力あらんことをお願いいたします。

（ＮＨＫ水産手帖から）

県水産振興会「会報」第一巻第三号 三三、三、一五発行

第四回全国水産業技術改良普及事業

研究発表大会に参加して

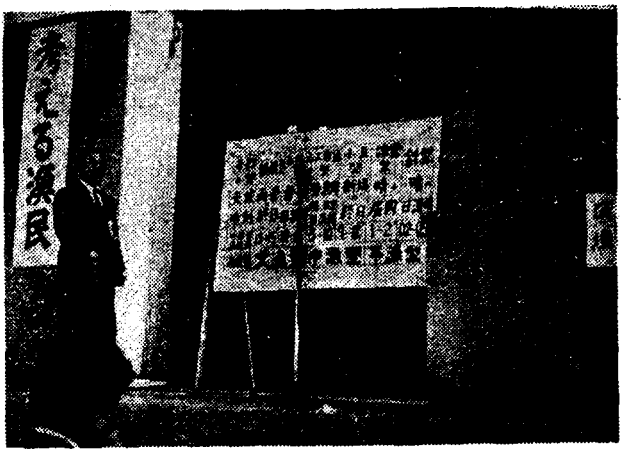
田沢健吉
鰺ヶ沢漁業研究会長

去る二月二十六日から三日間、農林省において第四回水産業技術改良普及全国研究発表大会が開催され、はからずも私が青森県代表に選考され、晴れの檜舞台で発表の栄を得ましたことを、関係者の皆様に深く謝意を表するものであります。

今回の全国大会に出場し、最も大きな成果は何といっても、全国優秀研究グループの活動状況と事業（漁業技術改良）の一端を直接知ることが出来たことであります。今後逐次当会の会員に紹介し得ることは、誠に有意義なことと存じます。

それでは全国の研究グループの活動状況はどのようであるかといいますと、県一本としたところの縦横の連繋が実に密接で、一つの軸となるべきものを中心に、活発に運営されているということであります。特に感じたことは南の方の県では積極さが見受けられ、北の方では北海道を除いて全般的に消極的な嫌があるとみたのは、あながち私のみの偏見でもないようであります。

この意味で、私は県水産振興会あたりが中心となり、青森県における沿岸漁業振興のセンターとなるべきような強固なものの、設立を念願するものであります。と同時に県自体において、本事業の永続的な計画を具体化し、積極的に指導、育成して戴きたいと考えております。



（登壇中の田沢氏）

次に、発表された漁具、漁法面での検討でありますが、全般的にみて吾々の漁具、漁法が遅れているとは思われない。地域的な特殊性、対象とする魚種により必然的に漁具、漁法が変り、どの漁具が一番いいなどとは、断定出来ませんが、私達の体験からこのように感じたわけであります。要は私達グループ員が常に研究し、最も合理的な漁具、漁法を考え出すという努力と団結の力に外なりません。

最後に吾々漁師の共通の悩みを紹介しておきましょう。というのは仮に全国大会に県代表として選考

され出場のチャンスが得られたとしても、商売である漁業を休んでまで出場するという人が少いことであります。このような現実面をどのように処理をしたらいいか、或る程度関係者の理解ある協力が望まれる所以であります。

以上簡単に全国大会に出場した体験を率直に申し述べましたが、今後の本事業の発展を祈りながら筆をおきたいと思います。

千葉勝之助

青森市沿岸漁業技術研究協議会

昭和二十八年度水産業技術改良普及事業の実施に基いて、この産業の振興を図るため翌昭和二十九年度より研究発表全国大会の制度が設けられ、今年度をもつて回を重ねること四回、全国津々、浦々のグループの青壮男女が競つて相互の知識を交流し漁業の閉鎖的な因習を打破して年々向上しておりますが、本県にあつては今年度始めて出場するので青森市、青森県の名誉のため張切つて上京いたしました。

今年度の第四回大会に当り発表希望者は全国約百五十名を数えるに至り日程の関係から三十八名に限定されました。本県の場合は同一部門二名であり審査規定により認められないのでありますが、初登場であるという理由から水産庁と最後の審査まで猛烈な意見応酬をいたしたけれども、遂に水産庁の審議案に屈服せざるを得なかつた訳でありました。そこで本県の場合鰺ヶ沢研究グループが代表して発表することになりましたので、青森市を代表した私は出場の熱意は一時に冷却したのでありますが、明年度の大会を目差して今大会の雰囲気を充分満喫いたしました。このように厳選された出場者は常日頃生産増強に技術の研究を傾注している、その研究の成果を、この檜舞台において発表される訳ですから本人は勿論のこと、出身県出身地にとつてもこの上もない名誉であることは今更申述べるまでもありません。

今年度の発表された範囲は、漁撈、製造養殖、経営の各部門に渉り、特に漁撈、養殖と言つた原始産業なる漁業の技術研究が旺盛でありました。その内容も全国大会なるが故に魚種は勿論のこと研究技術も科学的でありました。

この大会に臨んで特に感じさせられたことは、この大会における紅一点であり、然かも大臣賞を獲得いたしました鹿児島県頴姫町出身の浜田広子さんの発表論文でした。この論文は「漁場の高度利用について」と題したものでこれは所謂浅海増殖を意味しておるのでありますが、浅海増殖事業は申述べるまでもなく老幼男女誰でも自然条件の具備と、熱意さえあるならば、結構その目的を達することの出来る事業であるところから家計の一助として婦人グループを組織し、天草の成育を促進するため雑草を除草し又岩面を撮破するなど生産性向上の一役を果しておるものであります。亦漁業協同組合より試験地を借り受けてこの事業の研究をして大なる成果を挙げておるとも言っております。この事業を婦人グループとの関連性は非常に適当で効果的であることが好評を博したのではなかろうかと思います。

私達も常に自分の組合に於て考えることは漁場の高度利用と言う建前から適地適産主義で老幼男女の可能な漁撈養殖を考究しなければならないと考えておつた関係からこの発表に感服いたしたものであります。

この他漁撈関係においては水産庁長官賞の一位を獲得した茨城県大洗町飛田惣一氏の発表された「タコ流し増漁法および漁具

の改良と機械化」と題した論文は従来の漁法としては、定置された漁獲方法でありましたが、機械化に伴つて漸次漁法も自然条件に適合した、漁具漁法に研究改良され、即ち樽を浮上放流し釣に適当な沈子をつけて漁獲する訳であります。この場合一隻の動力船（平均一屯四馬力、乗組員二～四名）で所有いたします樽数は四〇～五〇樽位が適当であるそうであります。

この漁法を全村漁民に普及して生産増強を図り反面生産価格の低価を漁業協同組合とよく連繋を保つて維持し、この事業の振興と漁家経済の向上促進に一役を果しており又このグループの自主的活動が漁場の総合的利用と漁場の造成を漁業協同組合に反映させて中心的存在として買われておるとも言つております。

この他三十六名の研究発表も私達からすれば、何れも遜色のない論文発表でありましたが、その全部をここに申述べられませんが、現況の疲弊した沿岸漁業の振興に大なる貢献をなしており、今後とも関係官庁の指導を受けつつ、この研究組合が各部門に於て有益、適切かつ実用的な知識を普及するようになることを希んで止まないものであります。

この大会に臨んで凡ゆる面に於て参考となり私達の技術研究組合の今後の運営には誠に有意義なる指針を修得いたしました、之偏に関係機関の御指導と御支援の賜であり紙上をもつて御礼申上げるとともに今大会の概要を御報告した次第です。

この機会に敢えて私は青森県漁民に訴えたい、他県の技術研究組合は急激な進歩をいたしておるとき、後進性青森県漁民の奮起を促したいものであります。

参考

第四回全国大会受賞者

農林大臣賞

第一位　磯の高度利用について
　鹿児島県頴姫町　浜田　広子

第二位　ハマチ底漕縄の研究について
　兵庫県福良　河野　竹男

第三位　タコ釣漁業とその増殖について
　山口県壇の浦　加藤　輝男

水産庁長官賞

第一位　タコ流し樽漁法および漁具の改良と機械化
　茨城県大洗町　飛田　惣一

第二位　噴流式洗魚機の考案について
　兵庫県柴山　大西　誠

第三位　ケンサキイカの漁家加工についての研究
　長崎県本町　坂本　亀夫

第四位　煮干いわし製造の煮熟と改良について
　千葉県銚子市　笠原幸次郎

第五位　桁網漁具の改良について
　山口県富海　渋谷　治信

第六位　キス網新漁法について
　新潟県浦浜　遠藤　正

水産振興会へ加入出資の御願い

本会は県市町村、漁業協同組合及び業界を正会員として昨年十月発足致しましたが、今や本県水産業振興の推進母体として県内外に広く認識されるに至りましたことは偏えに関係者各位の絶大なる御支援の賜と存ずる次第で御座います。

本会と致しましてはその結成の使命に鑑み、水産業界多年の宿望に答えるべく昭和三十三年度において沿岸漁業の振興特に漁業協同組合の育成、漁業技術の改良普及、水産物流通加工対策を主眼として本県水産業の不振打開に邁進致す決意で御座います。

就ては未だ本会へ加入申込をされていない市町村、漁業協同組合も御座いますので、この際洩れなく御加入、御出資下さいまして、本会事業の達成に御協力下さるよう御願い申上げます。

32.10.

田沢健吉氏発表論文（努力賞受賞）

魚探利用によるツキ（ヤナギメバル）一本釣（多鈎釣）の研究について

一、研究の動機

私達の住んでいる青森県鰺ヶ沢町は、本州の最北端津軽半島の西側に位する一漁村であります。明治以前は津軽文化の発祥地として栄華をほこり、古より俗に四浦と称され、十三、深浦、青森と共に良港として知られ、文化、経済の要点となつていたのであります。また漁場としても有名で明治年間にはニシンが饒産し、昭和の初期にはハタハタの好漁場として栄えたのでありますが、漸次衰微の一途を辿り、特に戦後は漁業人口の増加と動力船の急増により、資源の枯渇、漁場の狭隘等が叫ばれるようになり、私達の経済も窮乏の極に達しているような現状であります。

このような状勢に鑑み漁業経営の安定化と合理的な漁具漁法の改良工夫の必要に迫られ、漁業研究会の組織と同時に私達が無動力船時代から細々と漁獲し、正に米ビツ的な存在のツキ（ヤナギメバル）の漁場開発と漁具漁法の改良等、科学的な技術の導入をはかり、当面する窮状を打開するため水産試験場の指導のもとに調査研究に取りかかつたような次第であります。

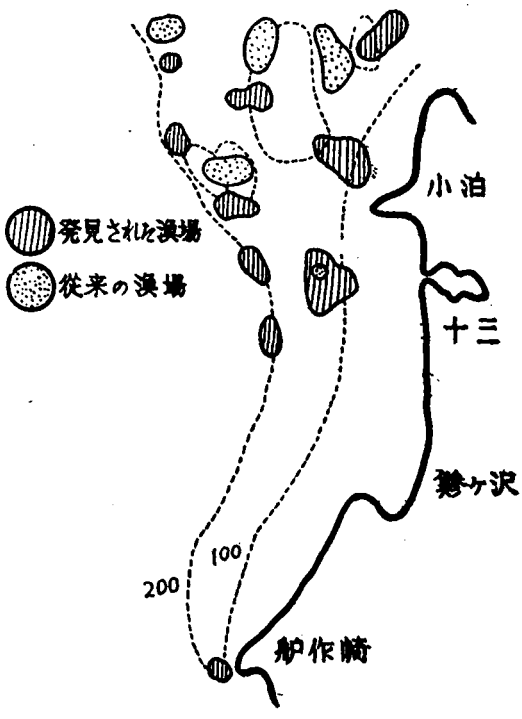
二、研究の過程

私の所有船、天洋丸（一四・五九屯、五〇馬力）に魚群探知機を装備し、古老や同業者船の船頭の経験とから従来ツキ漁場とされている場所を聴き、凡その漁場図を作製し、その漁場図に従い海底地形の状況を調査すると共に新漁場の開発につとめ、合せて漁獲試験を併行し漁場価値の判定を試みた。魚探の操作の熟練するに従い魚探の映像により合理的操業法、魚具漁法の研究を行つた。調査期間は昭和三十年九月より昭和三十二年十一月まで大羽イワシ、鱈延縄の漁期を除き、スルメイカ漁期には昼はツキ、夜はイカを漁獲し継続実施した。

三、研究の結果

(1) 漁場開発とその利用

前述の漁場図に重点をおき、魚探により海底地形の形状を調査し、漁獲試験を行つた結果、これらの漁場調査により優秀

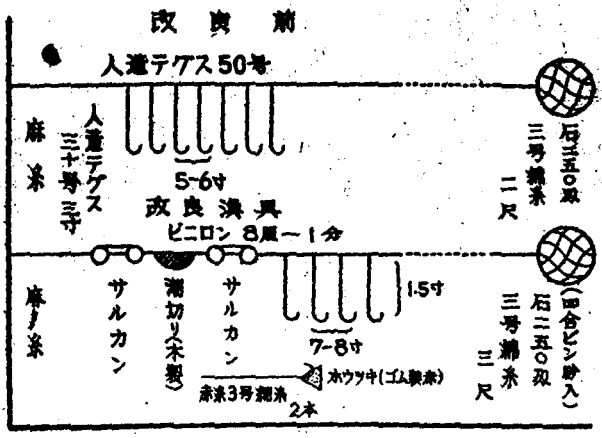


（第1図）ツキ漁場図

が新漁場が数多く発見され、現在盛んに利用され相当の効果をあげている。しかしこれらの漁場も年により、また季節により漁獲の変動が大きいので、海況との関係及び時季的な移動状況の調査に重点をおいて、実施したいと考えている。

(2)漁具漁法の改良

従来鰺ケ沢で使用されていた漁具は、第二図のようでありましたが、この漁具に



(第2図) ツキ一本釣漁具図

北海道松前地方のホッケ、ハイカラ釣、赤ホーヅキ、赤糸枝糸を利用し、更に多少の改良を加えて第二図のような漁具を考案した結果従来の漁具に比べて、はるかによい漁獲でその比率は一対一〇の割合である。漁法については従来の両敍釣を片敍釣に変え、成果をあげている。これは釣糸のもつれを防ぐ効果がある外、魚探操業では魚群を確認し、その頂点に漁具を落すことが最大条件なので片敍釣では好都合である。

(3)餌付について

イ、餌料の種類について検討

従来の漁具では皆餌をつけて釣つていたが、改良漁具の使用により餌を付けなくとも相当の漁獲があつた。しかし年により、時季により異なり、餌を付けたり、空餌で操業したりしているのが現状であるが、現在まで使用してみた餌料は一生サンマ(冷凍)、二塩サンマ、三生イカ、四生ソーダガツオ、五塩ソーダガツオ、六岩虫、七塩岩虫、八生大羽イワシ、九塩大羽イワシ、一〇冷凍イワシの一〇種類を使用してみました。

以上の一〇種類の餌料試験の結果、最も漁獲のよいものを順次に羅列すると次のようである。

一生岩虫、二塩岩虫、三生ソーダガツオ、四塩ソーダガツオ、五生イワシ、六冷凍サンマ、七冷凍イワシ、八塩サンマ、九塩イワシ、一〇生イカ。

岩虫が最も漁獲成績がよいが価格が高く採算がとれない。

次にソーダガツオがよいが水揚が少く餌付が入手困難である。

生物とか冷凍品は比較的餌付きがよいが餌落ちの懸念がある。また塩蔵品は餌落ちが少いが、四日以上経過したものは餌付きが低下する。生イカはソイ釣りと異なり餌付が悪い。

以上総合し、最も簡単に入手出来るサンマ、イワシの一～三日位の塩蔵品が無難で好評を得ている。

興味あることは、新漁場とか、従前からの漁場でも永く操業しなかつた漁場では、当初餌なしの改良漁具で相当漁獲があるが、余り長続きしない。

ロ、天候による餌付きの検討

現在までの試験結果では次のような順序となる。

一雨天、二曇天、三晴天

雨天が最もよく次いで曇天となつているが、晴天の時は最も餌付きが悪い。魚探により映像を観察すると雨天、曇天の時は魚群がよく集つているが晴天の時はマバラで薄くなつている。

ハ、時間による餌付きの検討

雨天、曇天の時は、日出から日没まで平均して餌付きが良好であるが、晴天の時は日出から三時間位と日没三〇分前より二時間位前が餌付きが良好である。日中は餌付きがよくない。夜間は殆んど魚探映像もなく、餌付きもないようである。

ニ、季節による餌付きの検討

従前行われている一般的な漁期は七月から九月までとされておりましたが、現在では魚探操業により殆んど周年に亘り操業が行われている現況であります。これを季節的にみると三月、六月は根からはなれており、このため漁場が広範囲となるが比較的餌つきがよい。

七月、八月は魚群がまとまつて根についており、餌付きが最もよい。

九月から十一月は餌付きが普通であるが、魚群が少くなるため漁獲高が減少する。

ホ、魚探映像の種類と漁況

私が今迄漁場で魚探に経験しました魚探映像の型を、便宜上次の六種に分類し夫々についての漁況の特性を申しますと

(1) 大漁型 ┌まんじゅう型
　　└お供え型
(2) 中漁型 ┌三角錐型
　　└小豆型
(3) 不漁型 ┌浮雲型
　　└針型

の六種が代表的な映像であり、その型により漁況が大きく違つてくることがわかります。いずれの場合でも影像が海底についているときと、一～二尋位浮いている場合とありますが、海底についている時の方が漁獲は多いようです。

以上を要約すれば次のようになる。

(1)新漁場が多く発見された。

(2)漁具漁法が改良され、漁獲が一〇倍となつた。

(3)最も安価な然も比較的餌付きのよい餌料が判つた。

(4)雨天、曇天には周日餌付きが良く晴天の場合は日の出後と日没前二～三時間がよく日中が悪いことが判つた

(5)季節的な餌付きの傾向が判然となつた。

四、普及性

前述の研究の結果で説明したような多くの不明の点が究明され、合理的な漁業経営のため大きな利益を収めている。

先ず最も大きな点を挙げれば次のようである。

(1)新漁場の発見により同一漁場に漁船が密集することなく漁獲成績が挙つた。

(2)漁具漁法の改良により直接的に漁獲能率が向上し、生産の増強に大きく役立つた。特に秋田県北部及び本県小泊の漁業者は、この方法を利用して効果を挙げている。

(3)餌料の研究により、無駄な支出が減少した。

(4)天候、時間及び季節的な餌付きの傾向が判つたので、状況に応じて合理的な操業がなされるようになり、経営の合理化にプラスするところが多い。

(5)今回の研究グループの研究により、科学的な物の考え方が強まつてきた。

(6)漁獲物を水産試験場に提供し、魚体調査の結果卵胎生であることが判明し魚族保護の観念がグループ員に浸透してきた。